

出土遺物

今回見つかった遺物は、戦国～安土桃山時代（約 500～400 年前）の愛知県瀬戸や岐阜県美濃で焼かれた陶器の皿や播鉢、愛知県常滑で焼かれた陶器鉢、周辺で焼かれた土師器（はじき）皿・羽釜などがあります。

播鉢はよく使われていて擦り目が減っているのがわかります。土師器皿は底部に焼成前に穴があげられています。

そのほか、縄文時代と思われる石鏃が出土しています。



石敷き遺構について

石敷き遺構 1 は、1 辺約 4m で北・西・南辺は石を立てて並べ、その間に平らな石を敷いた遺構です。石敷き遺構 2 は 1 辺約 3.2m で、1 ほど整然とは並んでいませんが、石を敷いています。これらに類似した遺構は福井県の特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の朝倉館跡などで見つかり、「蔵」と考えられています。また、広島県河内町の薬師城跡や京都府綾部市の平山城跡で見ついている類似した遺構は、火薬庫の可能性が考えられています。

今後さらに調査を進め、建物の構造や何に使われたのかを明らかにしていきます。

礎石建物について

礎石建物は、最大で東西 21m、南北 9m になりますが、東列や南列の東部の礎石が残っていないため、正確な規模は不明です。この建物の北・南・西側には大型の礎石に伴って小型の石が並んでおり、縁か軒になると考えられます。

まとめ

礎石建物や石敷き遺構が見つかったことにより、今回の調査地まで城として利用されていたことが裏付けられました。礎石建物は長期間利用することを想定した建物と考えられるため、城の北辺の重要な施設と考えられます。今年度は土塁の調査を行い、土塁の造られた時期や土塁以前の時期に生活の痕跡があるかどうかを調べます。田辺城跡の調査は今後も続いていきますので、田辺城および当地域の歴史がより明らかになることが期待されます。

遺跡名 田辺城跡
原因事業 東海環状自動車道建設事業
調査委託 国土交通省中部地方整備局
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503
TEL:0596-52-1732/FAX:0596-52-7035 <http://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/index.shtm>
いなべ整理所 〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野 454 番地
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

東海環状自動車道 発掘調査だより

(田辺城跡(第1次)調査現地説明会資料) いなべ編 No.3

三重県埋蔵文化財センター

2017.9.23



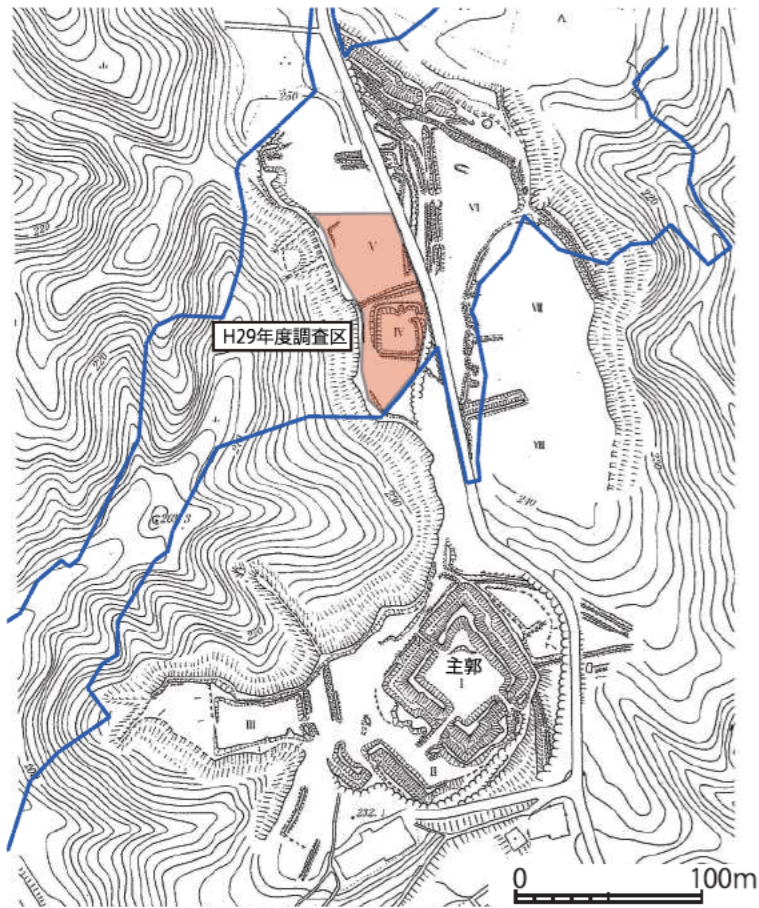
田辺城跡調査前写真（南上空から・平成 28 年度撮影）

はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、平成 27 年度から東海環状自動車道建設事業に伴う発掘調査を行っています。田辺城跡（たなべじょうあと）は、いなべ市北勢町田辺にあります。田辺城は江戸時代の書物などによると、織田信雄（おだのぶかつ）より田辺の所領を賜った木造（こつくり）氏が天正 14 年（1586 年）に築造したとされていますが、詳しいことはわかっていません。

平成 29 年度は、主郭（しゅかく）から約 200m 北に離れた田辺城跡の北部で、5 月から 3,500 m² の発掘調査を行っています。調査前から、四方を土塁（どるい）に囲まれた区画やその北側の土塁などが確認されていました（写真の雪の残るところ）。

それでは、今回の発掘調査で何が明らかになったのか、いにしへの田辺城の姿を思い浮かべながら、発掘調査の様子をのぞいてみましょう。



田辺城跡全体図 (1:4,000)

(伊藤徳也『再発見・北伊勢国の城』2008に加筆)



田辺城跡第1次調査区平面図 (1:400)



土坑1 (底部に炭化物多く含む)
※土坑2~6の底部にも炭化物が多く含まれています



炭焼き窯断ち割り (東から)



炭焼き窯 (南から)
※地元の聞き取りより昭和30~40年頃利用されていたようです



土坑7 (南から)
(熱を受け底部・壁が赤化・硬化)



石敷き遺構1 (東から)



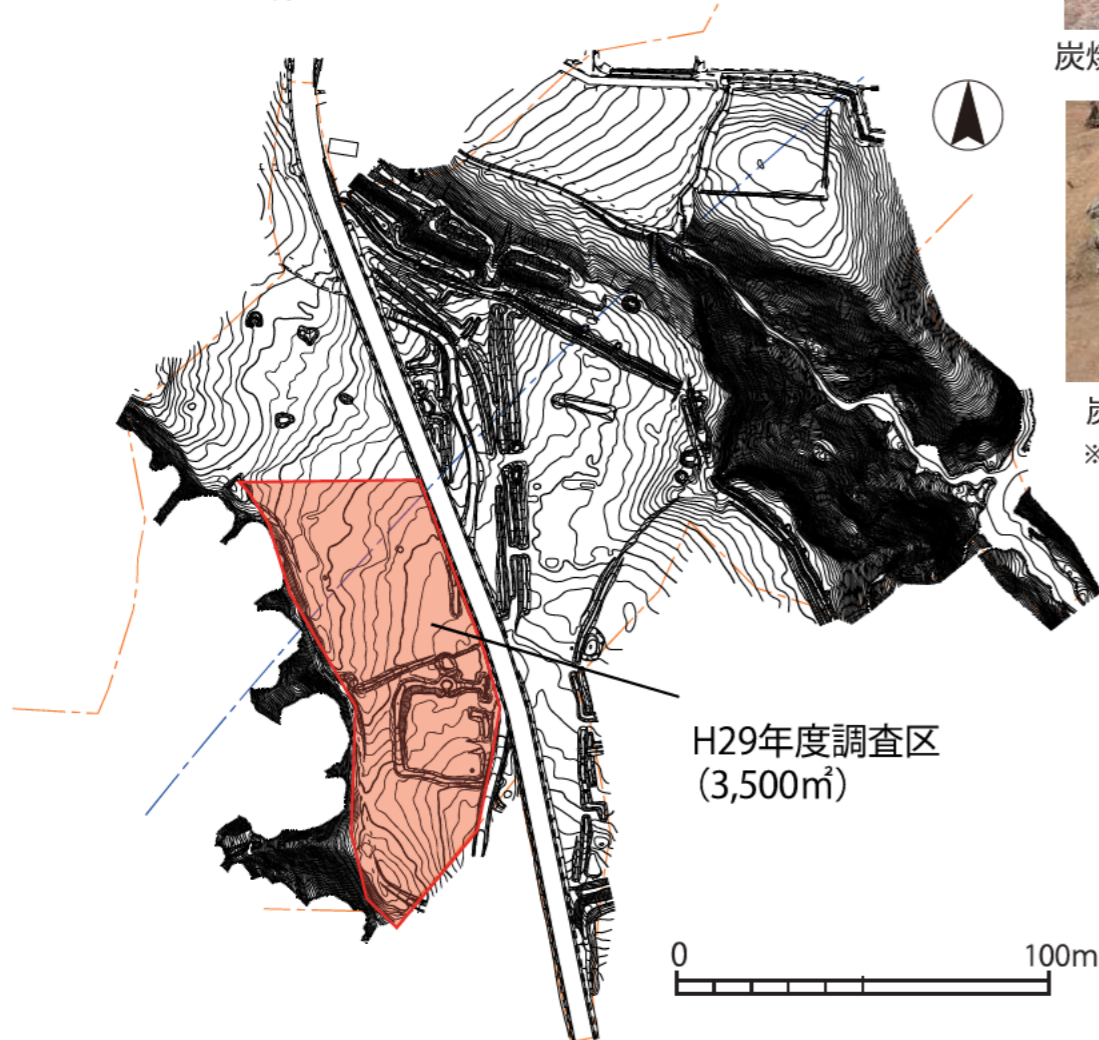
石敷き遺構1と礎石建物 (北から)



石敷き遺構2 (北から)



礎石建物 (西から)



田辺城跡調査区地形測量図 (1:2,000)